防災講話

９月１日は「防災の日」です。１９６０年に定められました。その前年、東海地方に大きな被害をもたらした「伊勢湾台風」、さらに遡って、１９２３年９月１日に起きて１０万人を超える人々が犠牲となった関東大震災を踏まえ、地震・風水害に対する防災意識を高めることを目的に定められました。

中央高校では、この防災の日にちなみ、７月の避難訓練と併せて、皆さんに防災に対する心構えを持ってもらうようにしています。地震、火事、風水害、いずれも、自分の身は自分で守るという意識が大切です。自分の身をどのように守るか？　避難する場合は、どの経路、どの道を通ったらよいか？　家族や親戚との待ち合わせ場所はどこにするか？その連絡方法は？　というように、日頃から考え、意識し、事が起きた時には、素早く行動できるようにして欲しいと思います。

様々な災害は、事前の予告なくやってきます。今年も台風による長雨や停滞前線により大雨に見舞われ、川が氾濫し、各地で大きな被害が生じました。私たちが事前にできることは、予測不能の避けられない自然災害に対して普段から危機意識をもつことだと思います。

「災害は忘れた頃にやって来る」。もしかしたら今日来るかもしれないという危機意識を持ちつつ、日々の生活送る、そして、時々普段の生活を振り返ってみてください。

２０２２年９月１日
校長　山　口　大　二